

新規帳票や追加項目など説明

国保データベース（KDB）システム担当者説明会



本会主催の国保データベース（KDB）システムの地区別担当者説明会が5月19日（本会）、20日（市民交流プラザふくちやま）で開催され、22保険者から63人の参加があった。

開会にあたり保健事業課の藤岡英之課長が「国保中央会でのKDBシステムの障害で保険者の皆様にご迷惑をおかけしていることをお詫びいたします。本会ではシステム障害の検証・分析を行いました。システムのメンテナンス後、帳票閲覧が可能となりますのでご協力のほどお願いいたします」と挨拶した。

この後、担当者が①KDBシステムの状況報告について②京都府後期高齢者医療広域連合のKDBシステム参加について③各市町村における地区別の帳票出力について④帳票の閲覧権限について⑤データヘルス計画策定について⑥今後のスケジュールについて一説明した。

KDBシステムでは、帳票の一部に歯科のくう蝕を除く歯肉炎、歯周病、精神のくアルツハイマー病、認知症が追加されたほか、新規帳票として疾病管理一覧にく高血圧症、脂質異常症、慢性腎臓病が加わった。また、府後期高齢者医療広域連合のKDBシステム参加に伴い後期高齢者の情報については平成24年度にさかのぼって閲覧が可能となるが、閲覧開始時期は未定。